

令和元年6月20日現在

機関番号：33923

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03766

研究課題名（和文）教育と社会福祉の連携によるウェルビーイングの実現をめざす教育福祉の総合的研究

研究課題名（英文）A holistic approach to the Education-Welfare for the actualization of well-being by the collaboration between education and social welfare

研究代表者

望月 彰 (Mochizuki, Akira)

名古屋経済大学・人間生活科学部教育保育学科・教授

研究者番号：40190954

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,300,000円

研究成果の概要（和文）： 貧困、孤立、自殺、児童虐待、いじめなど、現代日本における国民とりわけ子どもの生活と発達をめぐる課題の解決は、教育と社会福祉の連携を不可欠としている。しかし、両者は制度的にも、また、基本理念や実践方法論においても、それぞれ独自の体系をもっており、課題解決のための総合的な取り組みには多くの困難がある。

本研究は、教育と社会福祉の両分野の研究者の連携により、具体的な諸課題の解決のために「教育福祉」という統一的概念を設定し、その基本理念および実践方法論を探究してきた。また、その目的を達成するために最も適切な領域としてスクールソーシャルワークに着目し、教職員研修プログラムを実践的に構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間中には、教育学と社会福祉学の両分野による共同研究を、定期的および適宜開催し、諸課題に対する各分野における研究および実践的なアプローチについて共通理解を形成しつつ、「教育福祉」の理論化に挑戦した。

また、スクールソーシャルワーク教職員研修の実施により、教職員が、配置が進みつつあるスクールソーシャルワーカーとの協働によって課題解決するための基礎的な視点、知識・技術を習得することに貢献するとともに、研修プログラムを開発することができた。同プログラムは公刊予定であり、広く活用される可能性がある。

研究成果の概要（英文）： The collaboration between education and social welfare is indispensable to solve the problems on lives and human development of people especially children in modern Japan, such as poverty, isolation, suicide, child abuse, bullying and so on. However, it has many difficulties for solving problems by the holistic approach, because of each separate systems and principles and also practical methods.

On this study, we set a unified concept of 'Education Welfare' to solve specific challenges through collaboration among researchers in the fields of education and social welfare, and have been exploring its basic philosophy and practical methodology. Then we note the school social work as the most appropriate area to achieve our purpose, and built practically the teacher training program.

研究分野：教育学

キーワード：教育福祉 ウェルビーイング スクールソーシャルワーク

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

貧困・格差が拡大し、子ども、障害児者、高齢者、ひとり親等の社会的弱者の排除や孤立化等に伴う諸課題が進行しつつある中で、人間の尊厳と発達の観点から、課題解決に取り組む諸分野とりわけ教育と社会福祉分野における総合的な実践的指針が求められていた。

2. 研究の目的

教育(学)が追究する「発達」概念と社会福祉(学)の基盤である「人間の尊厳」を統一的にとらえる視点として「教育福祉」の概念の構築とその理論化を探究しつつ、地域における文化、芸術、スポーツ分野を含む実践的な支援システムの開発を目的とした。

3. 研究の方法

教育学分野と社会福祉学分野の研究者の共同研究により、諸課題に取り組むための基本理念、援助方法の共有化をはかるとともに、具体的かつ象徴的な実践領域であるスクールソーシャルワークに着目し、子どものウェルビーイングをめざす支援専門職の協働および教職員研修プログラムの開発を進めた。

4. 研究成果

本研究で得られた知見を基盤として、各共同研究者がそれぞれの分野における研究を発展させることができた。また共同研究の具体的な成果として、スクールソーシャルワーク教職員研修プログラムの開発の一環として教材集を作成し愛知県および県内各自治体の教育委員会に配付して教職員研修の促進に寄与することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 20 件)

・望月彰・山本理絵、教育と社会福祉の連携によるウェルビーイングの実現 教育福祉の視点に基づくスクールソーシャルワークの研究、「地域ケアリング」査読無、2019年1月号、pp.57-59。

・望月彰、子どもの権利から見た新要領・指針 これからの乳幼児教育の課題、生活教育、査読無、第71巻第2号、2019年、pp.50-57。

・橋本明、精神医学史がアートになるとき、臨床精神医学、査読無、第48巻3号、2019年、pp.301-307。

・山本理絵、早川真理、中村豪志・水野みち代、酒井多輝子、スクールソーシャルワーク教職員研修プログラム開発の成果と課題 - 大学と教育委員会との連携を通して -、生涯発達研究、査読有、第11号、2019年、pp.59-64。

・望月彰、子どもの貧困と保育・教育、生活教育、査読無、第69巻第2号、2017年、pp.46-52。

・望月彰、教育福祉学の視座、教育福祉学部論集、査読無、第66号、2018年、pp.1-10。

・望月彰・山本理絵・三山岳・瀬野由衣・渡邊眞依子・近藤みえ子・灰谷和代、自治体の子育て支援における教育と福祉の連携 行政組織再編・統合と異職種連携・協働の視点から、生涯発達研究、査読有、第10号、2018年、pp.41-50。

・宇都宮みのり、近代日本における公立精神科病院の役割(1) 中宮病院 1916-1928 -、社会福祉研究、査読無、第18巻、2017年、pp.1-11。

・大賀有記、日本人の死生観とかなしみの概念との関係：在宅看取りの可能性のための文献的検討、社会福祉研究、査読無、第19巻、2017年、pp.13-18。

・山本理絵・神田直子、家庭の経済格差によるリスクに対する防御促進要因の検討 - 子育て不安と中学生の自尊感情に焦点をあてて -、心理科学、査読有、第28巻第2号、2017年、pp.21-30。

・橋本明、精神病院へと収斂するもの、しないもの 近代日本の精神病者施設の多様性と地域性を考える、精神医学史研究、査読無、第21号、2017年、pp.36-42。

・田川佳代子、オランダのアムステルダムにおけるアウトリーチワーク、社会福祉研究、査読無、第18号、2016年、pp.1-8。

・三山岳、障がい児保育の巡回相談における専門性の歴史的検討(その2) ICIDH との関連から(1960~70年代)、生涯発達研究、査読有、第8号、2016年、pp.47-58。

〔学会発表〕(計 21 件)

・山本理絵・早川真理・中村豪志・水野みち代・酒井多輝子、スクールソーシャルワーク教職員研修プログラム開発の成果と課題 - 大学と教育委員会との連携を通して -、日本学校ソーシャルワーク学会第13回大会、2018年。

・三山岳・望月彰・山本理絵・瀬野由衣・近藤みえ子・灰谷和代、自治体の子育て支援における教育と福祉の連携 異職種連携・協働の視点から、日本保育学会、2017年。

・望月彰・山本理絵・瀬野由衣・渡邊眞依子・近藤みえ子・灰谷和代、自治体の子育て支援における教育と福祉の連携 行政組織再編・統合の視点から、日本保育学会、2017年。

・山本理絵・三山岳・瀬野由衣・畑中悦子・薬丸貴之、発達に特別な支援を要する子どもの就学相談の現状と課題 - 相談担当者への聞き取り調査より -、日本LD学会、2017年。

- ・吉川雅博、失語症者の意思疎通支援、日本コミュニケーション障害学会、2017年。
- ・山本理絵、人間関係に困難を抱える幼児の異年齢保育における支援、日本保育学会第69回大会、2016年。
- ・橋本明、わが国の精神科作業療法史の再検討、第117回日本医史学会、2016年。

〔図書〕(計 6 件)

- ・浅井春夫・黒田邦夫編、<施設養護か里親制度か 対立軸を超えて 「新しい社会的養育ビジョン」とこれからの社会的養護を展望する」、明石書店、2018年、総頁数250頁。担当部分：望月彰、第9章 要支援家庭のための政策と実践を求めて 地域を基盤にした支援策とは何か、pp.176-194。
- ・日本保育学会編、保育学講座第2巻 保育を支えるしくみ 制度と行政、東京大学出版会、2016年、総ページ数313頁。担当部分：望月彰、第4章 学童保育，障がい児保育，子育て支援事業、pp.91-117。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：山本 理絵

ローマ字氏名：(YAMAMOTO, rie)

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：教育福祉学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：60249282

(2)研究協力者

研究協力者氏名：宇都宮 みのり

ローマ字氏名：(USTUNOMIYA, minori)

研究協力者氏名：渡邊 真依子

ローマ字氏名：(WATANABE, maiko)

研究協力者氏名：大賀 有記

ローマ字氏名：(OGA, yuki)

研究協力者氏名：内田 純一

ローマ字氏名：(UCHIDA, junichi)

研究協力者氏名：村田 一昭

ローマ字氏名：(MURATA, kazuaki)

研究協力者氏名：堀尾 良弘

ローマ字氏名：(HORIO, yoshihiro)

研究協力者氏名：瀬野 由衣

ローマ字氏名：(SENO, yui)

研究協力者氏名：吉川 雅博

ローマ字氏名：(YOSHIKAWA, masahiro)

研究協力者氏名：三山 岳

ローマ字氏名：(MIYAMA, gaku)

研究協力者氏名：田川 佳代子

ローマ字氏名：(TAGAWA, kayoko)

研究協力者氏名：橋本 明

ローマ字氏名：(HASHIMOTO, akira)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。